Hiramatsu
Hiramatsu Inc.

2027年３月期　第２四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕(連結)

2026年11月12日

上 場 会 社 名	株式会社ひらまつ	上場取引所	東
コ ー ド 番 号	2764	URL	https://www.hiramatsu.co.jp
代　　表　　者	（役職名） 代表取締役社長CEO	（氏名）	三須　和泰
問合せ先責任者	（役職名） 執行役員　経営管理本部長	（氏名）	服部　亮人　　TEL　03-5793-8818
半期報告書提出予定日	2026年11月12日	配当支払開始予定日	―

決算補足説明資料作成の有無　　：有
決算説明会開催の有無　　：有

（百万円未満切捨て）

１．2027年３月期第２四半期（中間期）の連結業績（2026年４月１日～2026年９月30日）

（１）連結経営成績(累計)

（%表示は、対前年中間期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2027年３月期中間期	4,876	9.2	△48	―	△38	―	△64	―
2026年３月期中間期	4,466	△19.6	△66	―	△67	―	△28	―

（注）包括利益　2027年３月期中間期　△65百万円（　―%）　2026年３月期中間期　△44百万円（　―%）

	１株当たり中間純利益	潜在株式調整後１株当たり中間純利益
	円 銭	円 銭
2027年３月期中間期	△0.91	―
2026年３月期中間期	△0.40	―

2027年３月期中間期及び2026年３月期中間期の潜在株式調整後１株当たり中間純利益につきましては、潜在株式は存在するものの１株当たり中間純損失であるため記載しておりません。

（２）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2027年３月期中間期	11,653	6,062	51.8
2026年３月期	11,914	6,116	51.2

（参考）自己資本　2027年３月期中間期　6,040百万円　　2026年３月期　6,094百万円

２．配当の状況

	年間配当金				
	第１四半期末	第２四半期末	第３四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2026年３月期	―	0.00	―	0.00	0.00
2027年３月期	―	0.00			
2027年３月期(予想)			―	1.22	1.22

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無　：　無

３．2027年３月期の連結業績予想（2026年４月１日～2027年３月31日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		１株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	10,591	7.2	341	70.4	321	57.6	288	31.1	4.08

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無　：　無

※　注記事項

（１）当中間期における連結範囲の重要な変更　：　有

新規　　２社（社名）　株式会社UNIVERSO
有限会社にんじんハウス　、除外　　ー社（社名）

（２）中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用　：　無

（３）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

①　会計基準等の改正に伴う会計方針の変更　：　無

②　①以外の会計方針の変更　：　無

③　会計上の見積りの変更　：　無

④　修正再表示　：　無

（４）発行済株式数（普通株式）

①　期末発行済株式数（自己株式を含む）	2027年３月期中間期	74,740,400株	2026年３月期	74,740,400株
②　期末自己株式数	2027年３月期中間期	4,008,989株	2026年３月期	4,092,989株
③　期中平均株式数（中間期）	2027年３月期中間期	70,669,903株	2026年３月期中間期	70,613,801株

※　第２四半期（中間期）決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※　業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

業績予想の前提となる仮定及び業績予想のご利用にあたっての注意事項につきましては、添付資料Ｐ．３「１．経営成績等の概況（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧下さい。

○添付資料の目次

１．経営成績等の概況 …… 2
（１）当中間期の経営成績の概況 …… 2
（２）当中間期の財政状態の概況 …… 3
（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 …… 3
２．中間連結財務諸表及び主な注記 …… 4
（１）中間連結貸借対照表 …… 4
（２）中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書 …… 6
中間連結損益計算書 …… 6
中間連結包括利益計算書 …… 7
（３）中間連結キャッシュ・フロー計算書 …… 8
（４）中間連結財務諸表に関する注記事項 …… 9
（セグメント情報等の注記） …… 9
（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記） …… 9
（継続企業の前提に関する注記） …… 9
（企業結合等関係） …… 9

１．経営成績等の概況

（１）当中間期の経営成績の概況

当中間連結会計期間（2026年４月１日～2026年９月30日）におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善を背景に個人消費が持ち直すなど、緩やかな回復基調で推移いたしました。訪日外国人旅行者数は、７月として過去最高を記録したものの、中国からの旅行者の減少や中東情勢の影響等により８月以降は前年を下回りました。また、食料品を中心とした物価上昇の長期化、中東情勢に起因する原材料・エネルギー価格の上昇、人手不足を背景とした人件費の上昇が続くなど、飲食業界を取り巻く経営環境は依然として先行き不透明な状況にあります。

こうした環境の中、当社グループは「中期経営計画2030」の２年目として、既存店の収益力向上と生産性向上に継続して取り組むとともに、新規出店、既存店のリニューアル投資およびM&Aによる事業ポートフォリオの拡張など、中長期的な成長に向けた投資を計画的に実行いたしました。

レストラン事業につきましては、既存店において、店舗ごとの市場動向を踏まえた価格帯と提供内容、集客手法の最適化を継続いたしました。送客サイトの活用等により新規のお客様の獲得を図るとともに、会員組織を基盤とするCRM施策、シェフによるガラディナーや周年イベントの開催、季節・記念日メニューの提案を通じてお客様との関係深化と再来店の促進に取り組みました。この結果、一部店舗のリニューアルに伴う休業があったものの、既存店における来店客数はランチを中心に前年同期を上回り、既存店売上は前年同期および当初計画をいずれも上回りました。また、国立新美術館内店舗は、集客力のある企画展の開催を背景に好調に推移いたしました。新規出店につきましては、2026年２月に開業した「HRMT STAGE」（恵比寿）および2026年５月に開業した「Monsieur Dior」（大阪・心斎橋）が新たに売上に寄与いたしました。両店とも、認知度の向上と集客の安定化に向けた取り組みを継続しております。以上により、前連結会計年度における「代官山ASOチェレステ 二子玉川店」閉店の影響を吸収し、レストラン事業全体の売上は前年同期を上回りました。

ブライダル事業につきましては、成約後から挙式当日に至るまでのきめ細やかなコミュニケーションを通じ、料理コースの多段階化や演出料理・乾杯酒のランクアップなどの料飲提案、ならびに写真・映像・衣裳等の付帯商品の提案を強化いたしました。一部店舗のリニューアルに伴う休業の影響により実施組数は前年同期を下回ったものの、料飲および付帯商品の受注増により組単価が上昇し、売上は前年同期および当初計画をいずれも上回りました。

ホテル事業につきましては、施設ごとの需要動向に応じた価格戦略の運用に加え、開業10周年を記念した自社販売限定のプランや連泊プランの投入により自社直販の比率を高めるとともに、ワインペアリングをはじめとする料飲提案の強化に取り組み、富裕層およびインバウンドを中心とした需要を着実に取り込みました。また、「THE HIRAMATSU 京都」では客室単体での販売を取り入れ、客層の拡大を図りました。この結果、台風による予約の取消等の影響があったものの、客室稼働率が上昇し、各施設の売上を集計したホテル総売上は前年同期および当初計画をいずれも上回りました。なお、連結損益計算書には、マネジメント契約に基づく運営受託報酬を計上しており、当該報酬も前年同期および当初計画を上回っております。

その他事業につきましては、ラグジュアリーブランドとの協業による店舗運営受託事業が銀座・代官山の２拠点体制となったことにより増加したほか、連結子会社である株式会社HRMIが2026年４月１日付で全株式を取得したイタリア・サルデーニャ料理レストラン「Tharros（タロス）」を運営する株式会社UNIVERSOの売上をその他事業に計上しております。また、同社が2026年９月１日付で洋菓子の製造・販売を行う有限会社にんじんハウスの全株式を取得し、連結の範囲に含めており、同社の売上もその他事業に計上しております。これらの結果、その他事業の売上は前年同期を大幅に上回りました。

利益面につきましては、増収効果により、新規出店に伴う先行費用やM&A関連費用、採用活動の強化に伴う募集費等の増加を吸収したことに加え、人件費が計画を下回って推移したこともあり、営業損益および経常損益はいずれも前年同期および当初計画を上回りました。

これらの結果、当中間連結会計期間における当社グループの業績は、売上高4,876百万円（前年同期比9.2%増、当初計画比1.5%増）、営業損失48百万円（前年同期66百万円の営業損失、当初計画114百万円の営業損失）、経常損失38百万円（前年同期67百万円の経常損失、当初計画121百万円の経常損失）となり、いずれも前年同期および当初計画を上回りました。一方、親会社株主に帰属する中間純損失は64百万円（前年同期28百万円の中間純損失、当初計画138百万円の中間純損失）となり、当初計画は上回ったものの、前年同期からは損失が拡大しました。これは、前年同期には繰延税金資産の計上により法人税等調整額△54百万円（利益）を計上していたのに対し、当中間期は法人税、住民税及び事業税15百万円に加え、繰延税金資産の取崩しによる法人税等調整額10百万円を計上したことによるものであり、税金費用の影響を除いた損益は前年同期から改善しております。

なお、当社グループはレストラン事業の単一セグメントであるため、セグメント別の経営成績の記載を省略しております。

（２）当中間期の財政状態の概況

①資産、負債及び純資産の状況

当中間連結会計期間末の総資産は前連結会計年度末に比べ260百万円減少し、11,653百万円となりました。これは主に、現金及び預金が605百万円、流動資産のその他に含まれる未収消費税等が491百万円減少した一方、原材料及び貯蔵品が103百万円、有形固定資産が353百万円、のれんが226百万円、投資その他の資産が94百万円増加したことによるものであります。

負債合計は前連結会計年度末に比べ206百万円減少し、5,591百万円となりました。これは主に、流動負債のその他に含まれる未払金、未払費用がそれぞれ92百万円減少、78百万円減少したことによるものであります。

純資産は前連結会計年度末に比べ53百万円減少し、6,062百万円となりました。これは主に、資本剰余金が29百万円減少、利益剰余金が64百万円減少、自己株式の処分により41百万円増加したことによるものであります。

②キャッシュ・フローの状況

当中間連結会計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べ605百万円減少し、4,361百万円となりました。当中間連結会計期間における各キャッシュ・フローの状況と、それらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果、獲得した資金は310百万円（前年同期は857百万円の支出）となりました。これは主に、未収消費税等の減少が491百万円（同158百万円の増加）、未払金の減少が92百万円（同22百万円の減少）、未払費用の減少が83百万円（同27百万円の減少）となったことによるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果、支出した資金は748百万円（前年同期は391百万円の支出）となりました。これは主に、有形及び無形固定資産の取得による支出が492百万円（前年同期は246百万円の支出）、連結範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出が183百万円（前年同期は該当事項なし）となったことによるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果、支出した資金は167百万円（前年同期は116百万円の支出）となりました。これは主に、長期借入金の返済による支出が165百万円（前年同期は115百万円の支出）となったことによるものであります。

（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2027年３月期の連結業績予想につきましては、上期の業績が計画を上回って推移したことから前年を上回る見込みであり、当初予想を上回る可能性もありますが、当社グループは第３四半期に利益が集中する傾向にあることに加え、新規出店店舗の開業後の業績動向など不確実な要素もあることから、繁忙期である第３四半期の実績をもって精査し、修正の必要が生じた場合には速やかに開示いたします。

※業績予想につきましては、発表日現在において入手可能な情報に基づき判断したものであり、潜在的なリスクや不確定要素が含まれております。

２．中間連結財務諸表及び主な注記

（１）中間連結貸借対照表

（単位：千円）

	前連結会計年度 （2026年３月31日）	当中間連結会計期間 （2026年９月30日）
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,966,198	4,361,131
売掛金	494,510	479,337
原材料及び貯蔵品	2,044,994	2,148,825
製品	－	5,935
仕掛品	－	1,515
その他	1,010,841	538,049
貸倒引当金	△10,679	△10,129
流動資産合計	8,505,865	7,524,665
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	1,771,294	1,872,992
その他（純額）	415,759	667,361
有形固定資産合計	2,187,054	2,540,353
無形固定資産		
のれん	－	226,680
その他	28,380	74,340
無形固定資産合計	28,380	301,021
投資その他の資産		
敷金及び保証金	973,769	1,014,748
その他	219,305	272,681
投資その他の資産合計	1,193,074	1,287,429
固定資産合計	3,408,510	4,128,804
繰延資産	－	399
資産合計	11,914,375	11,653,869

（単位：千円）

	前連結会計年度 （2026年３月31日）	当中間連結会計期間 （2026年９月30日）
負債の部		
流動負債		
買掛金	477,329	444,834
短期借入金	1,700,000	1,700,000
1年内返済予定の長期借入金	230,000	243,332
株主優待引当金	25,375	23,701
未払法人税等	31,037	15,690
契約負債	403,557	410,602
資産除去債務	10,052	10,052
その他	981,624	855,292
流動負債合計	3,858,976	3,703,506
固定負債		
長期借入金	1,667,500	1,610,633
資産除去債務	256,326	260,276
その他	15,284	17,019
固定負債合計	1,939,110	1,887,928
負債合計	5,798,087	5,591,435
純資産の部		
株主資本		
資本金	100,000	100,000
資本剰余金	7,628,461	7,599,061
利益剰余金	276,078	211,718
自己株式	△2,020,305	△1,978,893
株主資本合計	5,984,234	5,931,886
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	110,533	109,027
その他の包括利益累計額合計	110,533	109,027
新株予約権	21,520	21,520
純資産合計	6,116,288	6,062,433
負債純資産合計	11,914,375	11,653,869

（２）中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書

中間連結損益計算書

（単位：千円）

	前中間連結会計期間 （自 2025年４月１日 至 2025年９月30日）	当中間連結会計期間 （自 2026年４月１日 至 2026年９月30日）
売上高	4,466,922	4,876,966
売上原価	2,027,297	2,162,812
売上総利益	2,439,625	2,714,153
販売費及び一般管理費	2,506,269	2,763,097
営業損失（△）	△66,643	△48,944
営業外収益		
受取利息	7,196	12,106
為替差益	－	2,732
協賛金収入	986	5,532
業務受託料	6,644	1,622
受取賃貸料	11,698	12,526
その他	3,697	12,333
営業外収益合計	30,222	46,854
営業外費用		
支払利息	20,376	28,404
為替差損	8,628	－
その他	1,647	7,870
営業外費用合計	30,652	36,275
経常損失（△）	△67,073	△38,365
税金等調整前中間純損失（△）	△67,073	△38,365
法人税、住民税及び事業税	15,587	15,470
法人税等調整額	△54,140	10,523
法人税等合計	△38,553	25,994
中間純損失（△）	△28,520	△64,359
親会社株主に帰属する中間純損失（△）	△28,520	△64,359

中間連結包括利益計算書

（単位：千円）

	前中間連結会計期間 （自 2025年４月１日 至 2025年９月30日）	当中間連結会計期間 （自 2026年４月１日 至 2026年９月30日）
中間純損失（△）	△28,520	△64,359
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	△16,337	△1,506
その他の包括利益合計	△16,337	△1,506
中間包括利益	△44,857	△65,866
（内訳）		
親会社株主に係る中間包括利益	△44,857	△65,866
非支配株主に係る中間包括利益	－	－

（３）中間連結キャッシュ・フロー計算書

（単位：千円）

	前中間連結会計期間 （自 2025年４月１日 至 2025年９月30日）	当中間連結会計期間 （自 2026年４月１日 至 2026年９月30日）
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前中間純損失（△）	△67,073	△38,365
減価償却費	103,150	112,635
のれん償却額	－	5,818
本社移転費用引当金の増減額（△は減少）	△10,800	－
貸倒引当金の増減額（△は減少）	△27	△549
支払利息	20,376	28,404
株主優待引当金の増減額（△は減少）	－	△1,674
株式報酬費用	4,233	4,506
売上債権の増減額（△は増加）	105,957	29,786
棚卸資産の増減額（△は増加）	△290,320	△82,459
前渡金の増減額（△は増加）	101,927	△19,601
仕入債務の増減額（△は減少）	5,042	△41,464
未払金の増減額（△は減少）	△22,601	△92,562
未払費用の増減額（△は減少）	△27,762	△83,146
未払消費税等の増減額（△は減少）	△586,014	18,164
未収消費税等の増減額（△は増加）	△158,584	491,884
契約負債の増減額（△は減少）	41,238	7,961
預り金の増減額（△は減少）	3,826	1,343
その他	△34,177	19,437
小計	△811,609	360,118
利息及び配当金の受取額	6,977	10,686
利息の支払額	△20,740	△28,808
法人税等の支払額	△32,215	△31,037
営業活動によるキャッシュ・フロー	△857,587	310,958
投資活動によるキャッシュ・フロー		
投資有価証券の取得による支出	△1,831	△12,345
有形及び無形固定資産の取得による支出	△246,807	△492,723
有形及び無形固定資産の売却による収入	－	1,911
資産除去債務の履行による支出	△22,790	－
敷金及び保証金の差入による支出	△91,808	△27,691
敷金及び保証金の回収による収入	149	60
建設協力金の支払による支出	△30,000	△38,060
建設協力金の回収による収入	1,200	3,745
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	－	△183,715
投資活動によるキャッシュ・フロー	△391,888	△748,818
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入金の返済による支出	△115,000	△165,175
ファイナンス・リース債務の返済による支出	△1,841	△2,084
財務活動によるキャッシュ・フロー	△116,841	△167,260
現金及び現金同等物に係る換算差額	157	53
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	△1,366,160	△605,067
現金及び現金同等物の期首残高	6,645,161	4,966,198
現金及び現金同等物の中間期末残高	5,279,000	4,361,131

（４）中間連結財務諸表に関する注記事項

(セグメント情報等の注記)

当社グループの報告セグメントは、レストラン事業のみの単一セグメントであり重要性が乏しいため、セグメント情報の記載を省略しております。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(企業結合等関係)

(株式取得による企業結合)

１．株式会社UNIVERSO

当社は、2026 年３月27日開催の取締役会において、当社の連結子会社である株式会社HRMI（以下「HRMI」）を通じて、イタリア・サルデーニャ料理レストラン「Tharros（タロス）」を運営する株式会社UNIVERSO（以下「UNIVERSO」）の全株式を取得することを決議し、2026年４月１日付で株式譲渡契約を締結いたしました。

（１）企業結合の概要

①被取得企業の名称及び事業内容

被取得企業の名称　株式会社UNIVERSO

事業内容　飲食店の運営

②株式取得の理由

当社グループは、中期経営計画「中期経営計画2030」において、オーガニック成長に加え、M&Aを活用した事業ポートフォリオの拡張による非連続な成長の実現を掲げております。

このたび、当社の連結子会社である株式会社HRMIは、イタリア・サルデーニャ料理レストラン「Tharros（タロス）」を運営する株式会社UNIVERSO（以下「UNIVERSO」）の全株式を取得するため、2026年４月１日付で株式譲渡契約を締結いたしました。

「Tharros」は、サルデーニャ料理という独自性の高いコンセプトを有し、食材・文化・ストーリー性を伴ったブランドとして評価されております。当社グループのブランドポートフォリオの拡充に資するとともに、今後の多店舗展開や関連事業への展開も見据えた成長が期待できるものと判断しております。

なお、本件は中期経営計画に基づくM&A 戦略の第１号案件として位置づけております。

③企業結合日

2026年４月１日

④企業結合の法的形式

現金を対価とする株式取得

⑤結合後企業の名称

名称に変更はありません。

⑥取得した議決権比率

100％

⑦取得企業を決定するに至った主な根拠

当社が現金を対価として株式を取得したためであります。

（２）中間連結損益計算書に含まれる被取得企業の業績の期間

2026年４月１日から2026年９月30日まで

（３）被取得企業の取得原価及び対価の種類ごとの内訳

取得の対価	現金	99,000千円
取得原価		99,000千円

（４）主要な取得関連費用の内容及び金額

M&A仲介手数料　6,930千円

（５）発生したのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間

①発生したのれんの金額

93,141千円

②発生原因

主として今後の事業展開によって期待される将来の超過収益力であります。

③償却方法及び償却期間

10年間にわたる均等償却

（６）企業結合日に受け入れる資産及び引き受ける負債の額並びにその主な内訳

流動資産	11,380千円
固定資産	11,859千円
資産合計	23,239千円

流動負債	10,009千円
固定負債	7,371千円
負債合計	17,381千円

２．有限会社にんじんハウス

当社は、2026年８月28日開催の取締役会において、当社の連結子会社である株式会社HRMI（以下 「HRMI」）を通じて、有限会社にんじんハウス（以下「にんじんハウス」）の全株式を取得することを決議し、2026年９月１日付で株式譲渡契約を締結いたしました。

（１）企業結合の概要

①被取得企業の名称及び事業内容

被取得企業の名称　有限会社にんじんハウス

事業内容　洋菓子の製造、販売

②株式取得の理由

当社グループは、中期経営計画「中期経営計画2030」において、オーガニック成長に加え、M&Aを活用した事業ポートフォリオの拡張による非連続な成長の実現を掲げております。2026年４月には、事業投資子会社である株式会社HRMIを通じて、イタリア・サルデーニャ料理レストラン「Tharros（タロス）」を運営する株式会社UNIVERSOの全株式を取得しており、本件は当社グループのM&A戦略における第２号案件となります。

にんじんハウスは、1983年の創業以来（2003年に法人化）、東京都多摩地域において洋菓子店「Quatre

Quarts（キャトルキャール）」を展開し、現在、同地域に３店舗を有しております。セントラルキッチンを備え、生菓子・焼き菓子からジェラートに至る幅広い商品を自社で製造し、各店舗にて販売するとともに、長年にわたり地域のお客様に支持される店舗運営のノウハウを有しております。

当社グループは、本件を通じて、一定の収益性を有する洋菓子事業を新たな事業領域として取り込みます。さらに将来的には、にんじんハウスが有する製造機能及び洋菓子の製造・販売に関するノウハウを活用し、当社グループの既存事業との連携によるシナジーの創出を図り、新たな洋菓子ブランドの展開等も含めた物販事業の拡大及び当社グループのパティシエの活躍の場の拡大につなげてまいります。

これらを通じて、当社グループの収益基盤及び事業ポートフォリオの強化を図り、中長期的な企業価値の向上を目指してまいります。

③企業結合日

2026年９月１日

④企業結合の法的形式

現金を対価とする株式取得

⑤結合後企業の名称

名称に変更はありません。

⑥取得した議決権比率

100％

⑦取得企業を決定するに至った主な根拠

当社が現金を対価として株式を取得したためであります。

（２）中間連結損益計算書に含まれる被取得企業の業績の期間

2026年９月１日から2026年９月30日まで

（３）被取得企業の取得原価及び対価の種類ごとの内訳

取得の対価　現金	121,000千円
取得原価	121,000千円

（４）主要な取得関連費用の内容及び金額

M&A仲介手数料等　20,200千円

（５）発生したのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間

①発生したのれんの金額

139,357千円

②発生原因

主として今後の事業展開によって期待される将来の超過収益力であります。

③償却方法及び償却期間

10年間にわたる均等償却

（６）企業結合日に受け入れる資産及び引き受ける負債の額並びにその主な内訳

流動資産	73,849千円
固定資産	99,181千円
資産合計	173,031千円

流動負債	81,890千円
固定負債	109,499千円
負債合計	191,389千円